

旭川市立光陽中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名	旭川市立光陽中学校（生徒数 244 名）
小学校名	旭川市立豊岡小学校（児童数 286 名） 旭川市立東町小学校（児童数 228 名）

1 推進地域の状況

本推進地域においては、落ち着いた学校生活を送る児童生徒が多い一方、主体的・積極的な行動にやや欠ける面が見られ、中学校に入学後、不登校・不登校傾向の生徒が増加する傾向がある。また、全国学力・学習状況調査においても、基礎学力の定着やメディアに接する時間等の生活習慣に課題が見られることから、中学校区における学校間連携の強化を図り、学習指導及び生徒指導の充実を図る必要がある。

2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

☆主体的に学び、よく関わり高め合う児童生徒の育成 ～本推進地域がめざす子どもの姿

【育成の視点】自分のよさや可能性に気付く子 ○自らの学習を調整し、粘り強く学ぶ態度

○家庭学習の習慣化

○基礎・基本の確実な定着と活用

○いじめを許さない態度

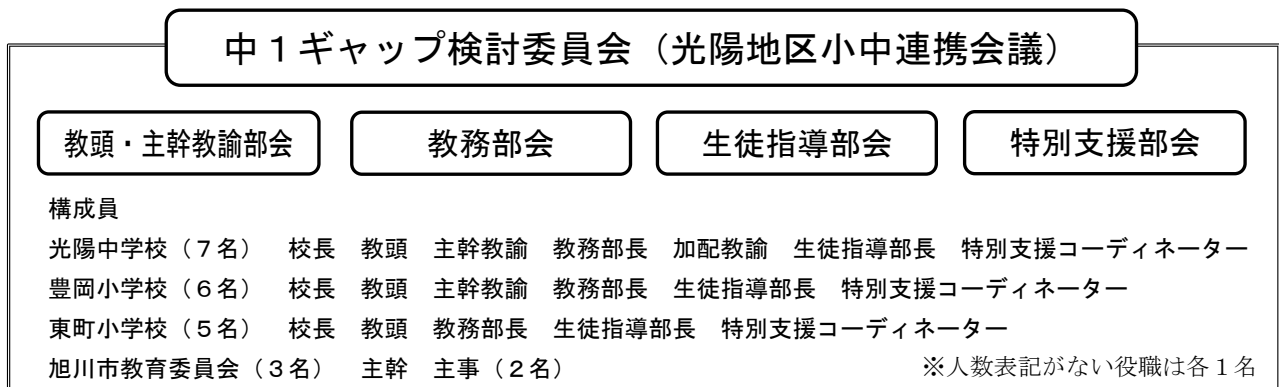
○お互いを尊重し、学び合う関係づくり

○場に応じた挨拶や礼儀

多様な他者と協働する子

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図



(2) 事業推進体制の整備に関する取組

- ・教頭・主幹教諭部会、教務部会、生徒指導部会、特別支援部会で構成される光陽地区小中連携会議を活用し、中1ギャップ検討委員会を組織している。
- ・加配教諭と各校の教頭、主幹教諭、旭川市教育委員会の主幹、主事を、中1ギャップ検討委員会の中心スタッフとして位置付けている。

(3) 加配教員の役割

- ・本委員会の調整や会の進行等を担うとともに、中1ギャップ問題の解消に向けたこれまでの取組の見直しや新たな取組の提案等を行った。
- ・推進地域の全教職員が学習指導や生徒指導に係る成果や課題等を共有することができるよう、各種調査の結果分析や、中1ギャップ検討委員会の各部会との連携・調

整を行った。

4 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	旭川市立光陽中学校	旭川市立豊岡小学校・旭川市立東町小学校
4 月	<p>【推進体制の整備】 ◎小中連携会議 ○中1ギャップ問題未然防止事業についての共通理解 ○中1ギャップ検討委員会の設置と年間計画・活動内容の検討 ○中1ギャップ解消プランの作成</p> <p>【学習指導や生徒指導に関わる取組】 ◎光陽中学校区「めざす子ども像」の周知 ◎学習規律の統一 ◎生活のきまりの見直し ◎家庭学習の手引きの見直し ◎学習・生活習慣確立の取組</p> <p>【不登校への対応】 ◎市教委作成資料『どの子にとっても魅力ある学校に』を参考にした不登校生徒への対応の確認 ・ ・ ・ 不登校児童生徒や不登校傾向の見られる児童生徒への早期対応 ◎不登校児童生徒へのICT等を活用した支援の取組準備</p> <p>【自殺予防教育】 ◎いじめ防止授業・いじめ撲滅宣言 ・ ・ ・ 児童生徒への啓蒙</p>	
5 月	<p>【自殺予防教育】 ◎学校いじめ防止基本方針に則った組織整備 ◎いじめアンケート① ・ ・ ・ 早期発見と早期対応及び教育相談の実施 ◎「自殺予防教育プログラム」の実施①</p> <p>【推進体制の整備】 ◎第1回中1ギャップ検討委員会（小中連携会議） ○本事業の内容と目的、重点目標・年間計画の確認 ○部会交流</p> <p>【不登校への対応】 ◎教職員研修資料『ICT等を活用した不登校の児童生徒への「学びを止めない」「心を近づける」 学習支援 実践事例』を参考にした不登校生徒への支援の取組開始 ◎不登校児童生徒の状況や対応策の交流</p> <p>【その他の取組】 ◎光陽中学校区学校運営協議会 ・ ・ ・ 本事業の説明と協力依頼</p>	
6 月	<p>【人間関係を築く力の育成】 ◎「ほっと」の実施① ・ ・ ・ 分析と活用</p>	
7 月	<p>【学習指導や生徒指導に関わる取組】 ◎参観授業の相互交流 ◎特別支援学級説明会</p> <p>【推進体制の整備】 ◎第2回中1ギャップ検討委員会（小中連携会議） ○本事業の内容と目的、重点目標・年間計画の確認 ○部会交流</p> <p>【不登校への対応】 ◎不登校児童生徒の状況や対応策の交流</p>	

時 期	光陽中学校	豊岡小学校・東町小学校
8月	<p>【学習指導や生徒指導に関わる取組】 ◎特別支援学級個別相談（～12月） ◎全国学力・学習状況調査の結果分析と交流</p> <p>【自殺予防教育】 ◎「自殺予防教育プログラム」の実施②・・・「心と身体のチェック」の実施と教育相談</p> <p>【人間関係を築く力の育成】 ◎中学校部活動体験会</p>	
9月	<p>【その他の取組】 ◎3校合同交通安全指導</p> <p>【学習指導や生徒指導に関わる取組】 ◎小中特別支援合同学習</p> <p>【自殺予防教育】 ◎スクールカウンセラーと連携した中学校特別活動</p>	
10月	<p>【推進体制の整備】 ◎第3回中1ギャップ検討委員会（小中連携会議） ○本事業の内容と目的、重点目標・年間計画の確認 ○部会交流</p> <p>【不登校への対応】 ◎児童・生徒の「学びを止めない」支援の交流 ◎不登校児童生徒の状況や対応策の交流</p>	
11月	<p>【推進体制の整備】 ◎第4回中1ギャップ検討委員会（小中連携会議） ○本事業の内容と目的、重点目標・年間計画の確認 ◎小中連携アンケートの実施・・・成果と課題・次年度への見直し ○部会交流</p> <p>【学習指導や生徒指導に関わる取組】 ◎生活リズムチェックシートの実施・・・分析と活用 ◎体力運動能力テストの結果交流 ◎学習・生活習慣確立の取組</p> <p>【不登校への対応】 ◎不登校児童生徒の状況や対応策の交流</p> <p>【自殺予防教育】 ◎スクールカウンセラーによる研修会 ◎いじめアンケート②・・・早期発見と早期対応及び教育相談の実施</p> <p>【人間関係を築く力の育成】 ◎「ほっと」の実施②・・・分析と活用</p>	
12月	<p>【学習指導や生徒指導に関わる取組】 ◎参観授業の相互交流 ◎学力向上学習プリント集の活用 ◎長期休業中の学習会</p> <p>【その他の取組】 ◎光陽中学校区学校運営協議会・・・本事業の進捗状況の説明</p>	
1月	<p>【自殺予防教育】 ◎「自殺予防教育プログラム」の実施③・・・「心と身体のチェック」の実施と教育相談</p>	

時 期	光陽中学校	豊岡小学校・東町小学校
2月	<p>【学習指導や生徒指導に関わる取組】 ◎新入学生説明会・中学校授業見学</p> <p>【自殺予防教育】 ◎いじめアンケート③・・・早期発見と早期対応及び教育相談の実施</p> <p>【その他の取組】 ◎光陽中学校区学校運営協議会・・・本事業の進捗状況の説明</p> <p>【推進体制の整備】 ◎第5回中1ギャップ検討委員会（小中連携会議） ○本事業の内容と目的、重点目標・年間計画の確認 ○評価と課題・次年度への見直し ○地域・保護者への本事業の成果の周知</p> <p>【不登校への対応】 ◎不登校児童生徒の状況や対応策の反省</p>	
3月	<p>【学習指導や生徒指導に関わる取組】 ◎中学生(生徒会)による小学校訪問 ◎新入学生に関わる丁寧な引継ぎ ◎キャリアパスポート引継ぎ</p>	

5 事業の成果

- **加配教員を配置したことによる成果**
本委員会の調整・進行役として、不登校児童生徒に対する組織的な取組や「ほっと」、全国学力・学習状況調査等の調査・分析、「自殺予防教育プログラム」やいじめ根絶に向けた取組等を推進したことにより、3校の全教職員が成果や課題等を共有し、今後の改善策等について検討することができた。
- **効果的な教育課程の改善**
全家庭に本推進地域のめざす子ども像を周知し、統一した学習規律の設定、児童生徒の家庭学習の習慣化に向けた取組、授業参観交流や特別支援学級の合同学習、新入学生説明会や小中の丁寧な引継ぎ等を教育課程に位置付けたことにより、9年間を見通した一貫した取組を計画的に推進することができた。
- **アセスメントツール「心と身体のチェック」を活用したことによる成果**
「心と身体のチェック」を実施し、生徒個人票等を活用しながら、よりきめ細かな教育相談を行ったことにより、生徒の悩みの早期発見や悩みを抱える生徒に対する早期対応へとつながった。

6 今後の課題と対応

- **「ほっと」等を活用した教育相談の充実**
「ほっと」を活用した教育相談をより充実させるため、「ほっと」の分析結果を補填する補助資料の活用や「ほっとプラス」等の実施・活用について検討する必要がある。
- **家庭学習の定着に向けた取組**
本推進地域の課題である学力向上、特に家庭学習を含めた基礎学力の定着に向けた望ましい学習・生活習慣の確立のため、本推進地域の「家庭学習の手引き」や「生活のきまり」の見直し等を図る必要がある。
- **ICT等を活用した支援の充実**
ICT等を活用した支援を充実させるため、学校と家庭が慎重に相談を重ねて信頼関係を深め、児童生徒や保護者の懸念を払拭するとともに、より有効な支援策を講じる必要がある。
- **児童生徒の交流の充実**
中学校入学前の児童の不安を解消し、児童生徒の円滑な9年間の学習活動を支援するため、地域ぐるみで児童生徒の成長を見守る取組や、児童生徒が交流して互いの理解を深める機会等を増やす必要がある。

鷹栖町立鷹栖中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名 鷹栖町立鷹栖中学校（生徒数 193 名）
 小学校名 鷹栖町立鷹栖小学校（児童数 115 名）
 鷹栖町立北野小学校（児童数 185 名）

1 推進地域の状況

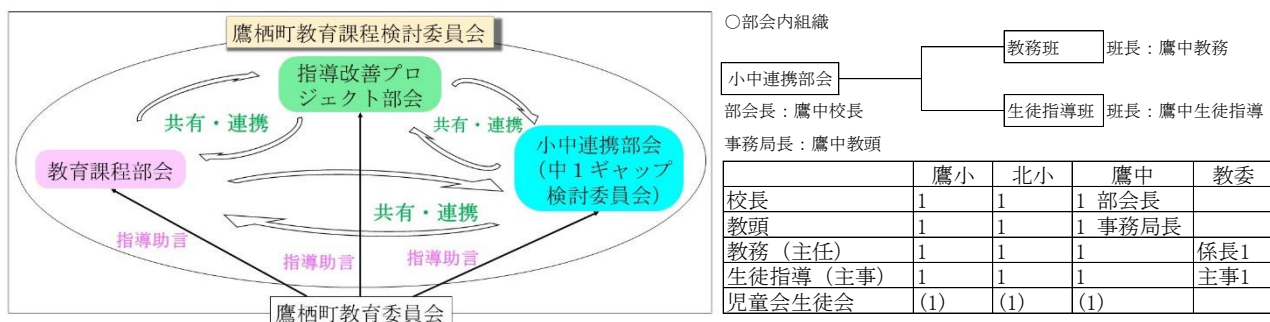
中学校では、いじめの認知件数や不登校生徒数がここ数年多い状況にある。いずれの要因も多様化しており、生徒に寄り添った対応が必要である。特に、不登校生徒については、小学校段階から継続的に不登校傾向が見られるため、9年間を見通した対応を早期から行うことにより、児童生徒の不安要素を取り除くとともに、自己指導能力の育成を目指し、自己形成や社会的資質・能力を育むための充実した指導と体制を構築する必要がある。

2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

学習面、生徒指導面からの指導の充実を図るとともに、小・中学校間の円滑な接続とよりよい集団づくりを通して、望ましい人間関係を構築し、不登校生徒の減少といじめ防止の取組の徹底を目指す。

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図



(2) 事業推進体制の整備に関する取組

- 既存の「鷹栖町教育課程検討委員会」内に「小中連携部会」（中1ギャップ検討委員会）を新設し、教育課程及び生徒指導の充実に向けた体制づくりを行うとともに、地域や関係機関とも連携し、地域全体で子どもを育成するよう努めた。
- 子ども理解支援ツール「ほっと」を各校で年2回実施した。分析結果については、生徒指導担当や特別支援教育コーディネーターで情報交流し、児童生徒の現状把握や今後の支援等について協議を行った。
- 生徒理解をより深めるために、町のスクールカウンセラーを講師に迎え、小・中学校の教職員向け研修を開催するとともに、学校適応に課題のある生徒の対応について研修を行った。

(3) 加配教員の役割

- 班会議や部会会議に向けた町内3校の日程調整を行った。
- 各会議や各種調査結果を踏まえ、現状の把握と改善策の提案等を行った。

4 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	鷹栖町立鷹栖中学校	鷹栖町立鷹栖小学校・鷹栖町立北野小学校
4月	<p>第1回 中1ギャップ検討委員会（小中連携部会） 教務班～小中の学力の課題とつまずきを視点とした取組について協議 生徒指導班～円滑な人間関係づくりに向けた取組について協議</p> <p>全国学力・学習状況調査</p>	
5月	<p>「鷹栖町小中連携の取組」について資料を用いて各学校の教職員へ周知</p>	
6月	○「ほっと」の実施	○「ほっと」の実施
	<p>第2回 中1ギャップ検討委員会（小中連携部会） 教務班・生徒指導班ともに具体的な取組について協議</p> <p>生徒指導班～児童生徒情報交流、「ほっと」の結果交流</p> <p>教務班～「学習に子どもがつまづく原因」アンケート実施</p>	
7月	<p>第3回 中1ギャップ検討委員会（小中連携部会） 教務班・生徒指導班ともに進捗状況の確認と今後の協議</p> <p>教務班～全国学力・学習状況調査の自校の分析結果の交流 「学習に子どもがつまづく原因」アンケートの結果分析・改善に向けた取組について確認</p>	
8月	<p>生徒指導班～児童会・生徒会交流 （各校のいじめ根絶に向けた活動について交流） 教務班～「学習に子どもがつまづく原因」アンケートの結果分析と改善に向けた取組について確認</p> <p>生徒指導班～小・中学校の教職員向け講演会 「学校適応に問題のある子どもたち」の開催</p>	
9月	<p>生徒指導班～児童会・生徒会交流、教職員向け講演会の反省</p> <p>○自殺予防教育プログラムの実施 「相談しやすい人間関係」</p>	

時 期	鷹栖町立鷹栖中学校	鷹栖町立鷹栖小学校・鷹栖町立北野小学校
10月	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 10px; text-align: center;"> <p>第4回 中1ギャップ検討委員会（小中連携部会） 教務班・生徒指導班ともに進捗状況の確認 【1日体験入学、「ほっと」（2回目）、児童会・生徒会交流について】</p> </div> <p>○自殺予防教育プログラムの実施 「相談しやすい方法」 「相談しやすい会話の仕方」 「自殺予防の知識」 「心身が不調の時の対応」</p>	
11月	○「ほっと」の実施	○「ほっと」の実施
12月	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; background-color: #e6f2ff; padding: 5px; text-align: center;"> <p>生徒指導班～児童生徒の情報交流、「ほっと」の結果交流</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 10px; text-align: center;"> <p>第5回 中1ギャップ検討委員会（小中連携部会） 教務班・生徒指導班ともに協議 【これまでの取組と今後の取組について】</p> </div>	
1月	○1日体験入学	○1日体験入学
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; background-color: #e6f2ff; padding: 5px; text-align: center;"> <p>教務班～「学習に子どもがつまづく原因」取組の検証アンケート実施・分析</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; background-color: #e6f2ff; padding: 5px; text-align: center;"> <p>生徒指導班～いじめ撲滅キャッチフレーズアンケート実施</p> </div>	
2月	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; background-color: #e6f2ff; padding: 5px; text-align: center;"> <p>生徒指導班～児童会・生徒会交流（いじめ撲滅キャッチフレーズの決定）</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 10px; text-align: center;"> <p>第6回 中1ギャップ検討委員会（小中連携部会） 教務班・生徒指導班ともに協議 【事業の反省とまとめ・次年度計画について】</p> </div>	
3月	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 10px; text-align: center;"> <p>第7回 中1ギャップ検討委員会（小中連携部会） 教務班・生徒指導班ともに協議 【次年度への引継ぎについて】</p> </div>	

5 事業の成果

○ 加配教員を配置したことによる成果

加配教員を中心に、学習面・生活面の小・中学校の取組について調整を図ったことにより、各校の具体的な取組につながるとともに、今後、取組を一層推進するための組織体制や内容の構築をすることができた。

○ 効果的な教育課程の改善

推進地域における目指す子どもの姿の実現に向けて、総合的な学習の時間「ふるさと共育」を中心に9年間で育成する資質・能力を踏まえて教育課程を改善したことにより、町内の教職員が系統性を踏まえた指導を意識することができた。

○ アセスメントツール「心と身体のチェック」を活用したことによる成果

夏季休業前後の結果において、否定的な回答が多い生徒に対して教育相談を実施し、生徒の悩みや生徒自身が気付いていない心の不安定さを把握したことにより、心の安定に向けた初期対応や継続的なケアに努めることができた。

【令和4年度 学校評価生徒アンケート結果】4P満点 「あなたは、自分にはよいところがあると思いますか」	
令和3年度	令和4年度
2.9P	3.1P

○ 教育課程に位置付けた人間関係を築く力の育成

自殺予防教育を実施したことにより、相談しやすい学級風土になり、生徒の相談への抵抗感を軽減することにつながった。

「ほっと」各項目別得点の群間比較の「相談項目」	
6月実施	12月実施
3.4P	3.5P

6 今後の課題と対応

- ・小・中学校間の継続的な指導や児童生徒理解を深めることができるよう、授業交流や児童生徒間の交流をより充実させる必要があるため、学校間の移動手段と移動に要する時間を確保する必要がある。
- ・本事業に対する教職員の意識に差があるため、今後、個々の教職員への継続的な啓発を行い、更なる意識付けを図る必要がある。
- ・本事業の更なる充実のため、小・中学校3校で新たな取組を始めたり、連携したりするなど、次年度に向けて効果的な取組を検討する必要がある。
- ・「学習のつまずき」、「円滑な人間関係づくり」を視点とした取組の推進のため、児童生徒の実態に応じた具体的かつ効果的な手立てを検討する必要がある。

羽幌町立羽幌中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名 羽幌町立羽幌中学校（生徒数 127 名）
小学校名 羽幌町立羽幌小学校（児童数 258 名）

1 推進地域の状況

本地域では、中学校において、悩みや不安を抱える生徒の増加や、不登校生徒が常態化していることが課題となっていることから、「中1ギャップ検討委員会」及び「不登校生徒援助チーム」を組織し、課題の解決にあたっている。具体的には、「援助チーム」を中心に、課題を抱える生徒に対して様々な支援策を実施して、生徒・保護者の困り感・不安感の解消に努めている。また、町内の小・中学校間やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部専門家と連携を強化し、学習指導と生徒指導の関連を図った教育活動の充実を図るとともに、悩みや不安を抱える生徒への支援などの生徒指導上の課題の未然防止に向けた取組を推進している。

2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

【不登校生徒の減少に向けた、課題を抱える児童生徒に対するきめ細かな支援】

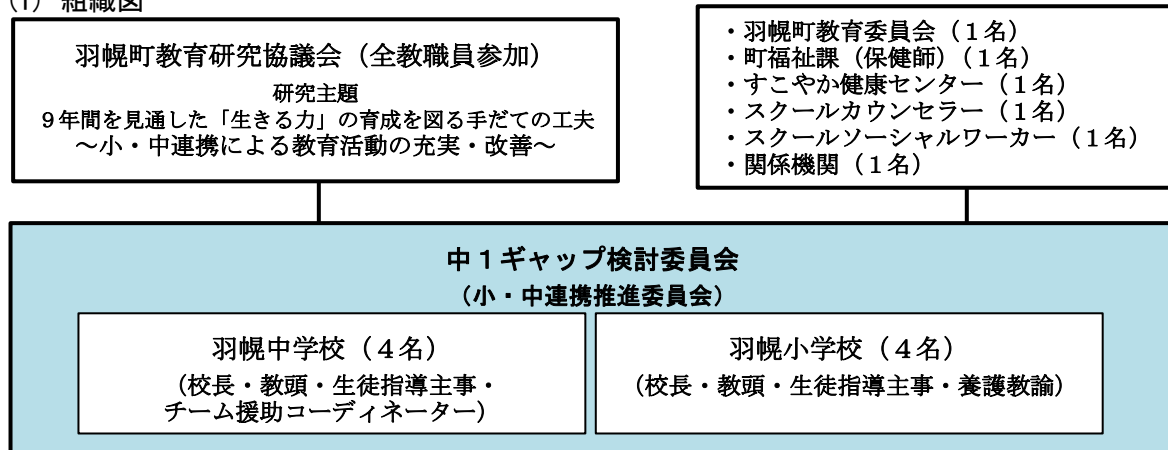
- 加配教員・チーム援助コーディネーターを中心とした「不登校生徒援助チーム」やスクールカウンセラー等と連携したケース会議の開催

【中学校入学時の中1ギャップの未然防止に向けた小・中連携】

- 学習規律・生活規律の改善に関する小・中学校間での一貫した取組の推進
- 小・中学校相互の授業参観や乗り入れ授業等による、指導体制・指導方法に係る授業改善の推進
- 9年間で育成すべき資質・能力の明確化と確実な育成

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図



(2) 事業推進体制の整備に関する取組

- ・「中1ギャップ検討委員会」の定期的な開催及び羽幌町教育研究協議会を活用した小・中学校連携の強化
- ・不登校児童生徒及び不登校傾向が見られる児童生徒に対する支援策の計画及び組織的取組の実施


(3) 加配教員の役割

- ・小・中学校における統一した学習規律・生活規律等の実施・検証・改善
- ・羽幌町教育研究協議会と連携した授業参観、乗り入れ授業、授業改善等研修活動等

の推進

- ・「ほっと」や生活アンケート、全国学力・学習状況調査、児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査の分析と結果分析を活用した生徒指導の検証改善サイクルの推進
- ・小・中学校の連携を図った不登校児童生徒に対するICTを活用した支援策の作成、実施
- ・不登校未然防止策の作成、実施
- ・加配教員とチーム援助コーディネーター、学級担任が連携したよりよい人間関係を築く力の育成を図る構成的グループエンカウンター、特別活動における取組の改善・充実

4 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	羽幌町立羽幌中学校	羽幌町立羽幌小学校
4月 5月	<p>【中1ギャップ検討委員会の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画及び組織体制の確認 ・小・中9年間を見通した指導目標（羽幌町教育研究協議会研究主題）の確認 ・ほっと、Q-Uなど客観的データの活用方法の確認 ・学習指導や生活指導の小・中学校の円滑な取組の推進 ・ICT等を活用した学習支援、教育相談の取組の推進 <p>【小・中学校合同研修会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中9年間を見通した研究主題（羽幌町教育研究協議会研究主題）の確認 ・年間研究推進計画の設定 ・小・中学校相互の授業参観及び乗り入れ授業プランの作成 <p>○ 不登校生徒等チーム援助会議の開催</p> <p>○ 加配教員を中心とした「ほっと」、Q-Uの実施と分析</p> <p>○ 校内研修（生徒指導）の実施</p> <p>○ 第1学年における援助希求的態度育成授業「心の健康授業～自分を大切にしよう～」</p>  <p>【中学校第1学年心の健康授業の様子】</p>	<p>○ いじめ防止会議の開催</p>
	<p>【小・中学校合同研修会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各研究委員会による小・中学校相互の授業参観及び授業研究 <p>○ 構成的グループエンカウンター・エクササイズの実施（各学年5・6月実施）</p>	
6月	<p>○ 不登校生徒等チーム援助会議の開催</p> <p>○ いやな思い調査・ネット利用実態調査の実施と分析</p> <p>○ 第2学年における援助希求的態度育成授業「心の健康授業～自分も相手も大切にしよう～」</p>	<p>○ いじめ防止会議の開催</p> <p>○ いやな思い調査・ネット利用実態調査の実施と分析</p>
	<p>【小・中・高児童会・生徒会担当者合同会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中・高の連携を踏まえた町内清掃ボランティア活動の実施 <p>○ 校内研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ほっと」、Q-Uの分析結果に基づく改善策の検討 	

時 期	羽幌中学校	羽幌小学校
7月 8月	【小・中学校合同研修会】 ・研究大会の実施（羽幌小学校会場）	
	<input type="checkbox"/> 「心と身体のチェック」の実施 <input type="checkbox"/> 不登校生徒等チーム援助会議の開催 <input type="checkbox"/> 学校評価アンケートの実施と分析 <input type="checkbox"/> 「学校生活に関するアンケート」の実施と分析	<input type="checkbox"/> 学校評価の実施と分析 <input type="checkbox"/> 「学校生活に関するアンケート」の実施と分析 <input type="checkbox"/> 「ほっと」、Q-Uの実施と分析
9月	【中1ギャップ検討委員会の開催】 ・ICT等を活用した学習支援、教育相談の取組の交流 ・小・中学校の学習規律・生活規律の交流 ・全国学力・学習状況調査結果の交流 ・ほっと、Q-U分析結果の交流	
	<input type="checkbox"/> 校内研修（生徒指導）の実施 <input type="checkbox"/> 加配教員を中心とした、「ほっと」、「ほっとプラス」、hyper-QUの実施と分析 <input type="checkbox"/> 不登校生徒等チーム援助会議の開催	<input type="checkbox"/> いじめ防止会議の開催
10月	【小・中学校合同研修会】 ・各研究委員会による小・中学校相互の授業参観及び授業研究	
	【乗り入れ授業】 ・中学校教員による、小学校への乗り入れ授業（体育、外国語）	
	<input type="checkbox"/> いやな思い調査の実施と分析 <input type="checkbox"/> 第3学年における援助希求的態度育成授業「心の健康授業～一人一人の存在を認め合おう」 <input type="checkbox"/> 校内研修の実施 ・「ほっと」、Q-Uの分析結果に基づく改善策の検討	<input type="checkbox"/> いやな思い調査の実施と分析
11月	<input type="checkbox"/> 不登校生徒等チーム援助会議の開催	<input type="checkbox"/> 「ほっと」、Q-Uの実施 <input type="checkbox"/> 校内研修の実施 ・「ほっと」、Q-Uの分析結果に基づく改善策の検討
	【中1ギャップ検討委員会の開催】 ・ほっと、Q-U検査分析結果の交流 ・総合的な学習の時間9年間の計画の策定 ・児童会・生徒会の合同企画の検討 ・今年度の実践の成果と課題について	
	【乗り入れ授業】 ・中学校教員による、小学校への乗り入れ授業（体育、外国語）	
12月 1月	<input type="checkbox"/> 校内研修（生徒指導）の実施 <input type="checkbox"/> 加配教員を中心とした「ほっと」、「ほっとプラス」、hyper-QUの実施と分析 <input type="checkbox"/> 「心と身体のチェック」の実施 <input type="checkbox"/> 学校評価の実施と分析 <input type="checkbox"/> 「学校生活に関するアンケート」の実施と分析 <input type="checkbox"/> 校内研修の実施 ・「ほっと」、Q-Uの分析結果に基づく改善策の検討 <input type="checkbox"/> 不登校生徒等チーム援助会議の開催	<input type="checkbox"/> 学校評価の実施と分析 <input type="checkbox"/> 「学校生活に関するアンケート」の実施と分析

時 期	羽幌中学校	羽幌小学校
2月	【中1ギャップ解消を目指した新入生説明会の実施】 【小・中学校合同研修会の実施】 ・今年度の成果の検証と課題について	
	【中1ギャップ検討委員会の開催】 ・今年度の成果の検証と課題について、次年度計画の立案	
	○ 不登校生徒等チーム援助会議の開催	
3月	【新入生に関する引継ぎ】 ・学習、生活、交友関係、家庭環境等の状況及び配慮事項についての確認 ・児童理解に向けて小学校の学級経営反省の引継ぎ	

5 事業の成果

○ 加配教員を配置したことによる成果

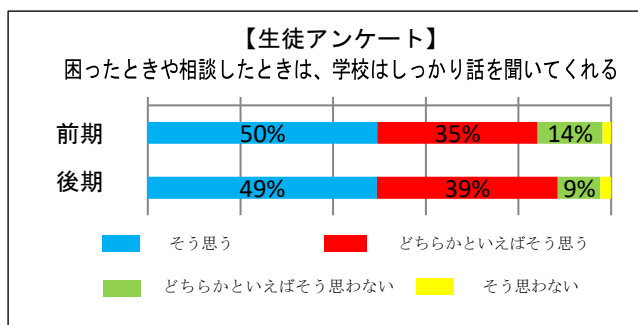
- ・加配教員を中心に、不登校児童生徒に対して、オンラインを利用した教育相談や学習相談、学校行事等の配信を行ったことにより、生徒の学習意欲の向上や、学校へ登校する意欲の向上、生徒・保護者の安心感の向上につながった。
- ・加配教員が中心となり、小学校では年2回、中学校では年3回の「ほっと」、Q-Uの分析を校内研修で活用するなど、組織的な生徒指導の取組について検証改善サイクルを確立したことにより、児童生徒一人一人へのきめ細かな指導が行われ、児童生徒の学校生活への意欲や自己肯定感を高めることができた。

○ 効果的な教育課程の改善

- ・羽幌町の目指す子供の姿「未来を拓き 心豊かで たくましい 子ども」に向け、総合的な学習の時間については、地域との連携を図りながら小・中学校9年間を系統的な計画となるよう改善したことにより、町全体で児童生徒の資質・能力を育む体制の確立につなげることができた。

○ アセスメントツール「心と身体のチェック」を活用したことによる成果

- ・夏季休業の前後の結果において、学校生活等に対する否定的な回答が多い生徒に対して、スクールカウンセラーを中心に教育相談を実施し、チーム援助会議で支援方針を定め対応したことにより、後期(12月)の中学校の学校評価アンケート(生徒)では、「困ったときや相談したときは、学校はしっかり話を聞いてくれる」という設問において、88%の生徒が肯定的な回答をしており、前期(7月)より3ポイント増加した。



6 今後の課題と対応

○ 小中連携の視点からの教育活動の一層の充実

- ・本年度、総合的な学習の時間について、小・中学校9年間を見通し系統的な計画に見直したことから、今後着実な実施に向けて小・中学校が連携して取り組むとともに、改善検証サイクルを確立する必要がある。
- ・羽幌町の目指す子供の姿の実現に向けて、現在の羽幌町教育研究協議会の体制の検証改善を進めるとともに、授業参観や乗り入れ授業等の充実を図るなど羽幌町全体における小・中学校の連携した教育活動を更に推進する必要がある。

枝幸町立枝幸中学校区中1ギャップ解消プラン

中学校名	枝幸町立枝幸中学校	(生徒数 127名)
小学校名	枝幸町立枝幸小学校	(児童数 178名)
	枝幸町立目梨泊小学校	(児童数 11名)
	枝幸町立岡島小学校	(児童数 9名)

1 推進地域の状況

本推進地域では、児童生徒の学習内容の定着に課題が見られているものの、本事業の推進を通して、児童生徒の学習意欲が高まり、主体的に授業に臨む児童生徒が増加している。しかし、人間関係や学習に対する不安から欠席日数が多くなり、不登校となる児童生徒も見られるため、個々の学習状況に応じた学習支援や家庭学習習慣の定着に向けた取組を行うことが必要である。

また、小学校から継続して不登校である生徒が複数いるため、加配教員を中心に、学校、保護者、関係機関が連携を図りながら解決に向けた取組を行っている。

2 推進地域の目標（小・中学校の重点目標）

小・中学校間の円滑な連携関係を構築し、教育相談体制の連携や教育活動の改善・充実を図る。

【令和4年度の重点 ～ 中1ギャップ問題未然防止のために】

- ・「そろえる」ことで、学校間のずれを解消し、円滑な接続を目指す。

※学習規律、生活規律の共通化の推進

- ・「つなげる」ことで、無駄や段差のない一貫した教育を推進する。

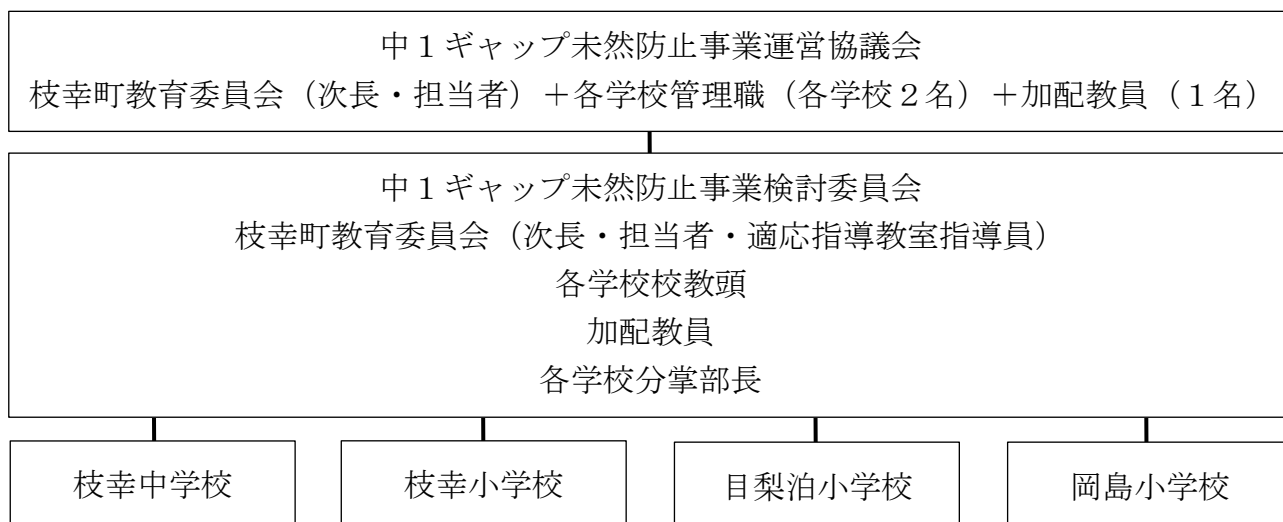
※キャリア教育、総合的な学習の時間の計画及び実践交流

※合同授業、中学校体験、児童生徒交流、交流授業等の実施

※取組、各種調査結果・分析、改善策等の定期的な交流による情報共有

3 中1ギャップ検討委員会の組織

(1) 組織図



(2) 事業推進体制の整備に関する取組

- ・各学校管理職・加配教員・町教委担当者で構成される「中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会」、「中1ギャップ問題未然防止事業検討委員会」において、事業の趣旨及び方向性について共通理解を深め、事業推進体制の整備を図ることができた。
- ・加配教員が中心となり、「安心をはぐくむ枝中引継シート」を作成したことにより、小・中学校共通の視点で児童生徒理解を図ることができた。

(3) 加配教員の役割

- ア 子ども理解支援ツール「ほっと」や「アセス」、全国学力・学習状況調査、児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の分析
- イ 調査結果を踏まえた指導方針の作成、改善
- ウ 不登校児童生徒の支援策の作成、実施
- エ 不登校未然防止策の作成
- オ 教員による授業参観、中学校見学等の計画と実施

4 中1ギャップ解消プランの実際

時 期	枝幸町立枝幸中学校	枝幸町立枝幸小学校・枝幸町立目梨泊小学校・ 枝幸町立岡島小学校
3月	<p>「安心をはぐくむ枝中引継シート」による新入生徒の情報交流 客観的指標（「SOYA サポート」結果・「Q-U」）・特別支援チェックリスト活用</p>	
	・加配教員の引継ぎ参加	・加配教員の引継ぎ参加
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内体制確立 ・全国学力・学習状況調査自校採点及び分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内体制確立 ・全国学力・学習状況調査自校採点及び分析
5月	<p>第1回中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事業内容、目標、重点、年間推進計画の確認 ○ 情報共有 ① 全国学力・学習状況調査自校採点結果・分析 ② 要支援児童生徒について 	
	・「アセス」実施①	・「アセス」実施①
6月	<p>第1回中1ギャップ問題未然防止事業検討委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報共有 ① 「アセス」結果の分析 ② いじめアンケート結果の分析 	
	・「ほっと」実施①	・「ほっと」実施①
7月	<p>第2回中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報共有 ① 「ほっと」結果の分析及び2学期の重点立案 	

時 期	枝幸中学校	枝幸小学校・目梨泊小学校・岡島小学校
8月	第2回中1ギャップ問題未然防止事業検討委員会 令和4年度中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会（合同研修会） <ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校及び小学校の授業参観 ○ 客観的指標に基づく事業推進の重要性について確認 ○ 情報共有 ① 「ほっと」結果の分析に基づく計画立案 <li style="padding-left: 2em;">② 小学校間交流の様子について 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺予防教育プログラム実施 ・枝幸中学校授業公開 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校間交流（合同授業・交流） ・枝幸小学校授業公開
9月	第3回中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会 <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報共有 ① 児童生徒交流 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・「アセス」実施② ・加配教員による枝幸小学校学校行事参観 	<ul style="list-style-type: none"> ・「アセス」実施② ・加配教員による枝幸小学校学校行事参観
11月	第3回中1ギャップ問題未然防止事業検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報共有 ① 「アセス」結果の分析の交流 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほっと」実施② 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほっと」実施②
12月	第4回中1ギャップ問題未然防止事業検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報共有 ① 小学校間の児童の様子交流を重点に実施 <li style="padding-left: 2em;">② 特別支援の見地からの児童の様子交流 <li style="padding-left: 2em;">③ 新入生入学説明会企画 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校キャリア教育への協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育実施
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生入学説明会開催 授業見学・部活動紹介・生徒会役員との交流 ・部活動アンケート実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生入学説明会参加
2月	第4回中1ギャップ問題未然防止事業運営協議会 <ul style="list-style-type: none"> ○ 年度末反省、新年度計画立案 ○ 「ほっと」結果の分析 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほっと」実施③ ・加配教員による小学校視察 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほっと」実施③ ・加配教員による小学校視察
3月	「安心をはぐくむ枝中引継シート」による新入学生徒の情報交流 客観的指標（「SOYA サポート結果」・「Q-U」）・特別支援チェックリスト活用	

5 事業の成果

○ 加配教員を配置したことによる成果

加配教員を中心に、小学校から中学校への接続に係り、「安心をはぐくむ枝中引継シート」を活用した詳細な引継ぎを行い、中学校入学後の不登校生徒及び登校しぶりの生徒への支援計画を早期に立案したことにより、中学校第1学年の不登校生徒数が減少した。

【中学校第1学年の不登校生徒数】

令和3年度	令和4年度
6名	1名

加配教員を中心に、不登校児童生徒の支援策の作成や1人1台端末を活用した同時双方向型の授業を実施し、教育クラウドサービスを活用した児童生徒間の意見交流の場を意図的に設定したことにより、中学校に在籍する過年度不登校傾向及び登校しぶりの傾向にあった生徒のうち、70%の生徒が登校できるようになった。

○ 効果的な教育課程の改善

中学校が作成したキャリア教育に係る資料を用いて、小中9年間の系統性を明確にした教育課程の改善に着手したことにより、小学校におけるキャリア教育の充実を図ることができた。

中学校区内にある小学校の総合的な学習の時間の年間指導計画を分析し、学習の継続性及び系統性を図る教育課程の編成を行った。

○ アセスメントツール「心と身体のチェック」を活用したことによる成果

長期休業明けに「心と身体のチェック」を実施し、生徒の内面理解を図るとともに、結果を基に学級担任による教育相談を実施したことにより、長期休業明けのスムーズな登校へつなげることができた。

6 今後の課題と対応

○ 教科等横断的な教育課程の編成

子ども理解支援ツール「ほっと」における「表明」のスキルが推進地域内における児童生徒の共通の課題であるため、教科等横断的な視点に立った、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の方向性を示す必要がある。

○ いじめ・不登校などの諸課題に対応する合同研修会の実施

生徒指導上の諸課題に係る推進地域内での共通理解をさらに図る必要があるため、外部講師を活用した、いじめ・不登校などの諸課題に対応する合同研修会を実施するとともに、教職員による学校間交流を推進する必要がある。